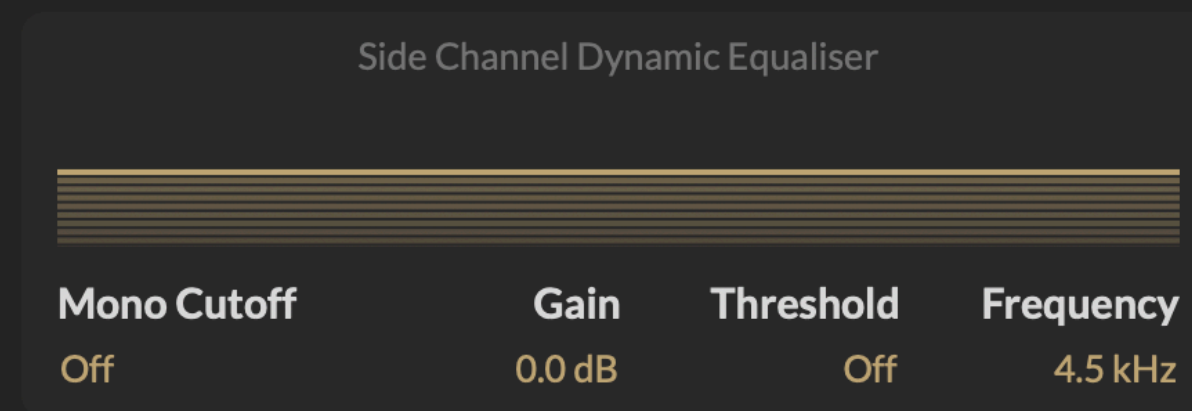
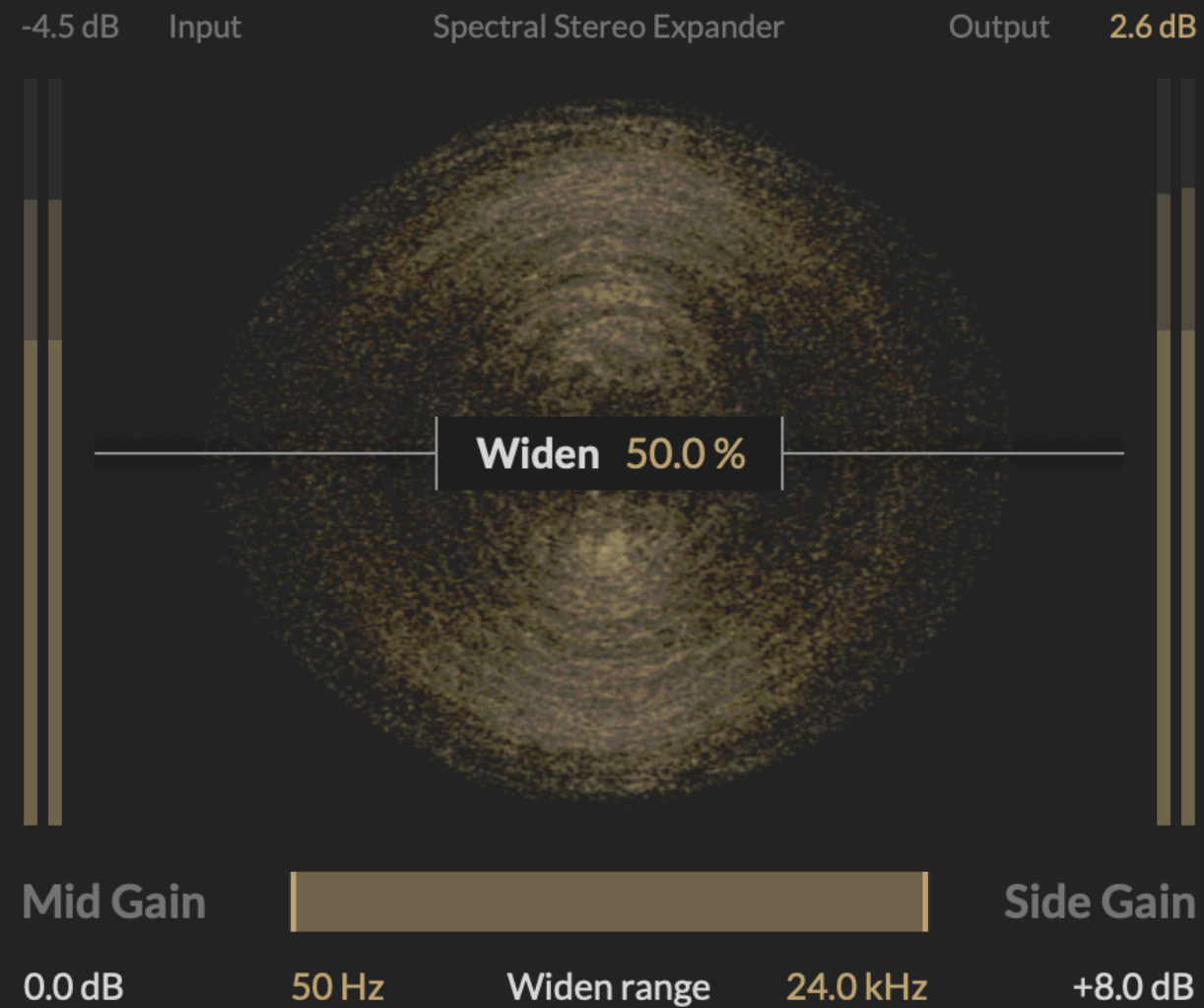


Techivation M-Imager

ユーザーマニュアル



Techivation M-Imager

概要

M-Imagerは、比類ない品質で自然な幅と奥行きを実現するスペクトラル・ステレオ・エキスパンダーです。モノラル入力をステレオ化することと、ステレオトラックを強化することの両方で優れた性能を発揮し、完璧なモノラル互換性、クリアなトランジェント、色付けのないマスターリング品質の結果を提供します。

M-Imagerは、オーディオをMidとSideの2つのチャンネルとして処理します。Midチャンネルはトラックのモノラル中心部です。Sideチャンネルは左右チャンネルの差分を表し、ステレオの幅とバランスに関するすべての情報を含みます。Sideチャンネルのみを処理することで、M-Imagerは完璧なモノラル互換性を確保します。

M-Imagerの核心には、カスタムのフェーズのみ、時間変動型スペクトルデコレレーターが搭載されています。このデコレレーターは、オーディオのMidチャンネルをステレオフィールドに自然に拡張し、トーンバランスを保持します。デコレレーターが適用するフェーズ回転は完璧に設計されており、トランジェントは鋭利なまま、調整したパンチとタイミングは正確に維持されます。

Techivation M-Imager

概要

ほとんどのワイドナーは静的で、持続音では崩れてしまいます。M-Imagerは、制御された滑らかな位相ドリフトにより、短時間のチャンネル間相関を優しく低下させます。その結果、コーラスやフランジング、空洞感のある「位相的な」輝きなしに、安定で自然な幅を実現します。

バランスの取れたステレオイメージは、特にマスタリングにおいて最も重要です。M-Imagerはサイドのエネルギーを継続的に調整し、幅をどれだけ広げても左右のバランスがずれることはありません。

高度なワイドニング機能に加え、M-Imagerはステレオイメージをさらに成形するためのダイナミックなサイドチャンネルEQを提供します。低音を中央にしっかり固定しつつ、トラックのダイナミクスに合わせてサイドを自由に呼吸させることができます！

Techivation M-Imager

特徴

- Widen
- Widen range
- Stereo field visualiser
- Mid Gain and Side Gain
- Mono Cutoff
- Side Dynamic EQ Frequency
- Side Dynamic EQ Gain
- Side Dynamic EQ Threshold
- Side Dynamic EQ Display
- Solo Mid and Solo Side
- Output
- Level meters
- Internal On-Off Switch
- Internal Menu
- Presets
- Scaleable GUI
- Guided Tour
- A/B Switch
- Undo-Redo Options
- Show/Hide Tooltips

Techivation M-Imager

特徴

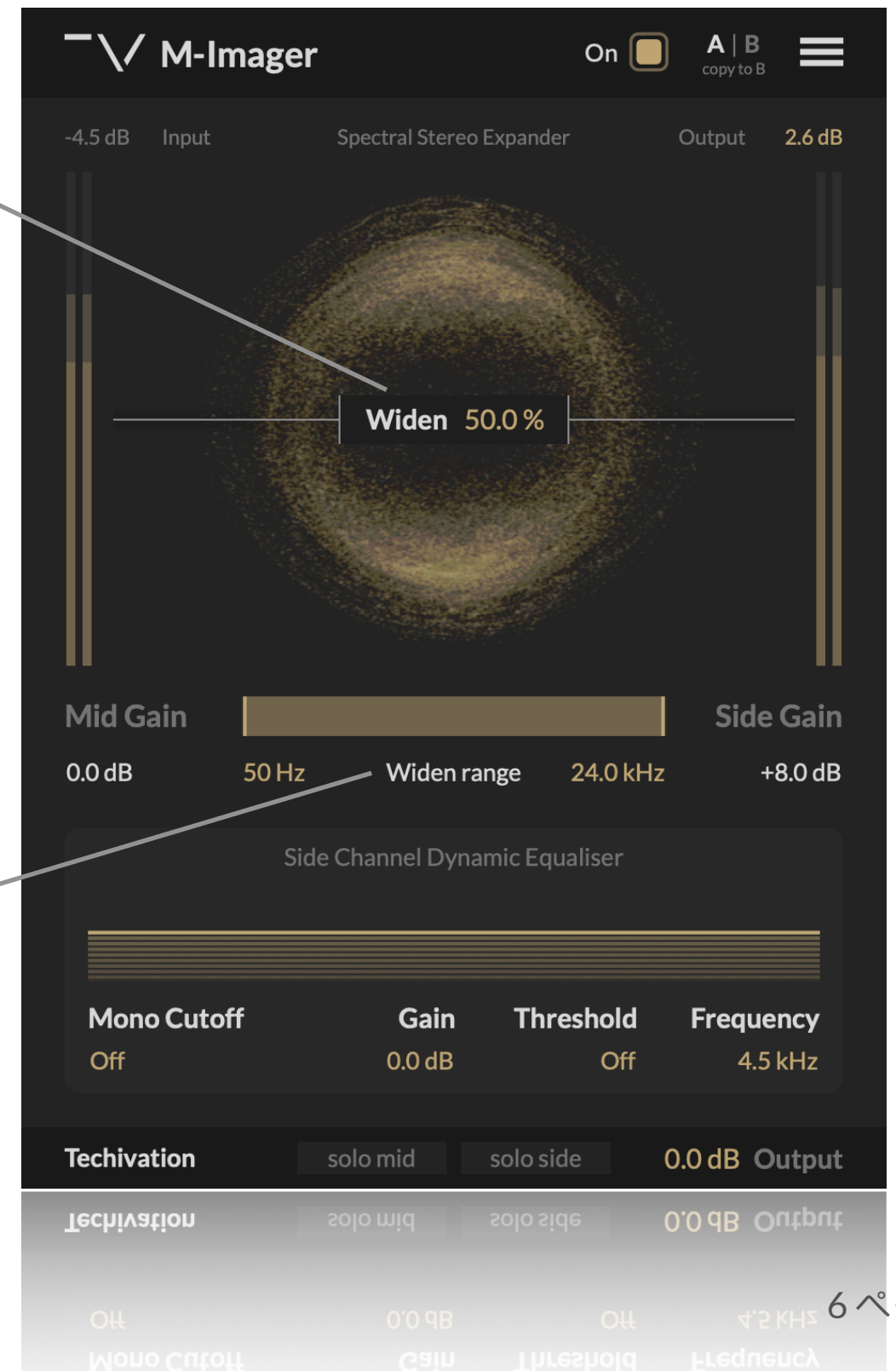
Widen

「**Widen**」は、元のMidチャンネルから生成される新しいSide信号の量を調整します。プラグインの入力がモノラルの場合、Widenを0%を超える値に設定すると、ステレオに拡張されます。入力が既にステレオの場合、生成されたSide信号は元のSideチャンネルに追加され、オーディオのステレオ幅が拡大されます。

Widen range

「**Widen range**」は、「Widen」コントロールによるステレオ拡張の影響を受ける周波数帯域を指定します。このコントロールは、新しいSide信号が生成される周波数帯域を制限します。

このコントロールを使用すると、M-Imagerのステレオ拡張効果を必要に応じて特定の周波数帯域に集中させることができます。例えば、トラックの低域を中央に固定したまま、高域のみをターゲットにすることで、低域の安定性を保つことができます。



Techivation M-Imager

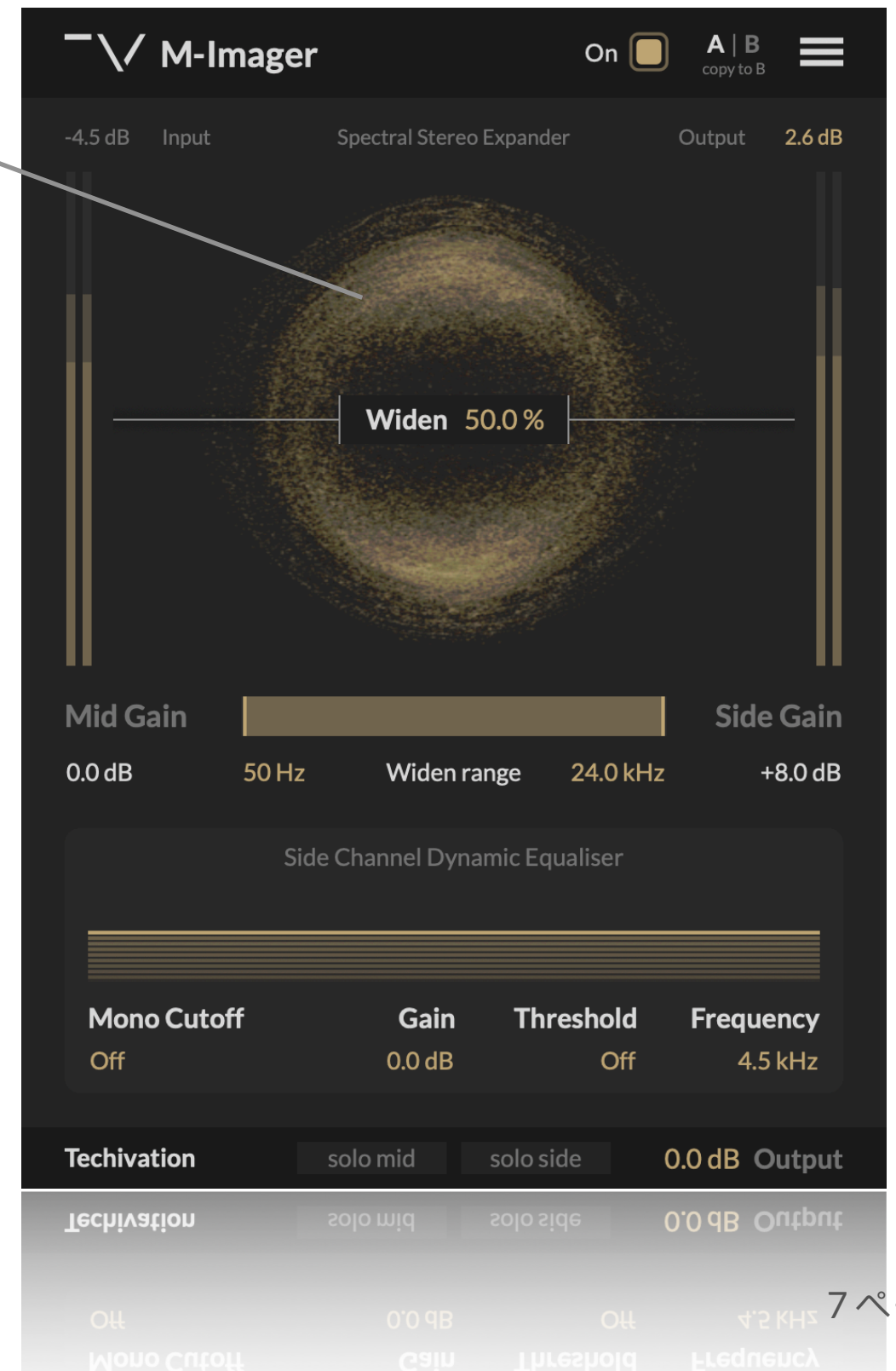
特徴

Stereo field visualiser

ステレオフィールドビジュアライザー (Stereo field visualiser) は、トラックのステレオイメージを包括的に把握できるリアルタイムのデシベル値付きゴニオメーターです。左チャンネルと右チャンネルの瞬間的なレベルをプロットするため、トラックの幅とバランスを確認できます。

ゴニオメーターの画像の幅は、左チャンネルと右チャンネルの差の大きさを表します：画像が広いほど、ステレオの広がりが大きくなります。モノラル信号は、ステレオ幅がないため、ゴニオメータ上で細い垂直線として表示されます。

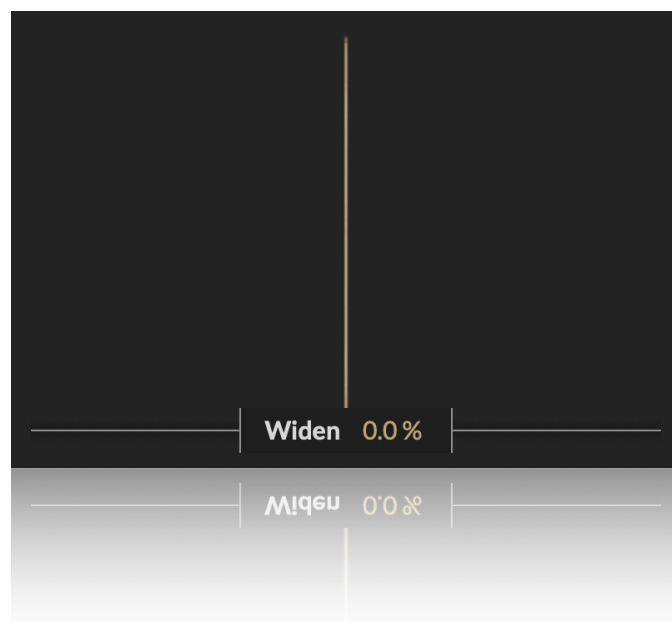
バランスの取れたステレオ画像は、ゴニオメータ上で左右対称の半分の雲のような形状で表示されます。バランスが左または右チャンネルに偏っている場合、ゴニオメータ画像は対応する方向に傾きます。



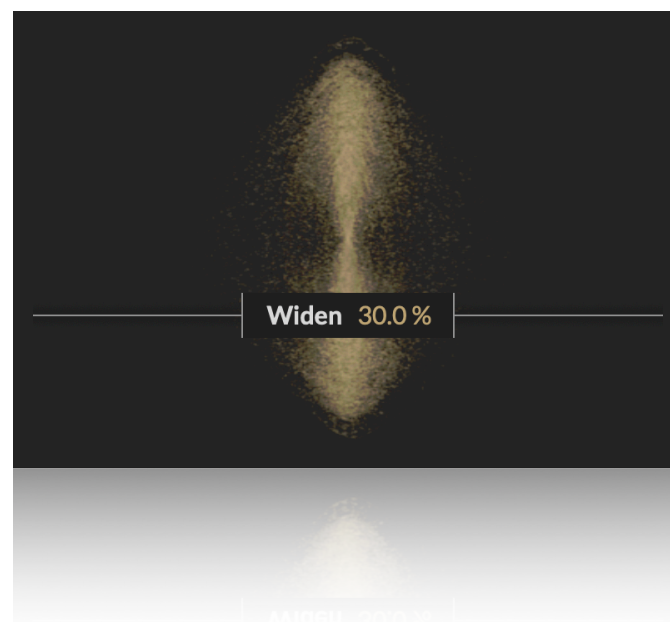
Techivation M-Imager

特徴

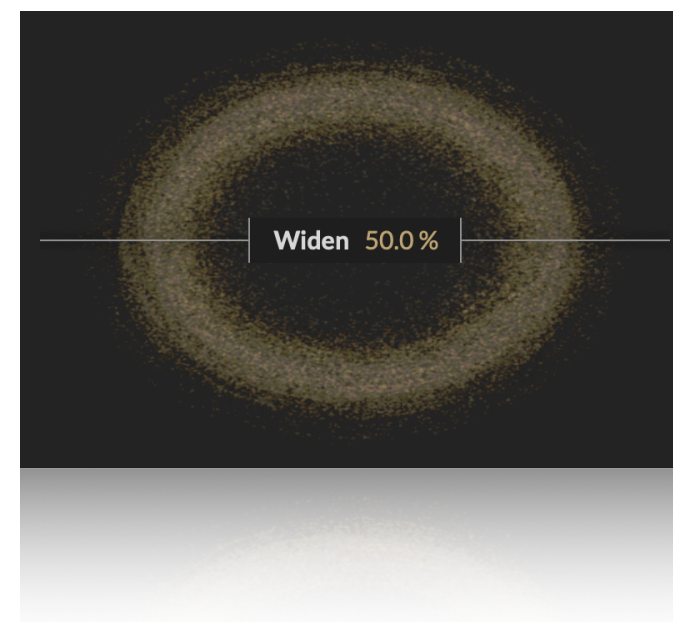
モノラル信号



狭いステレオフィールド



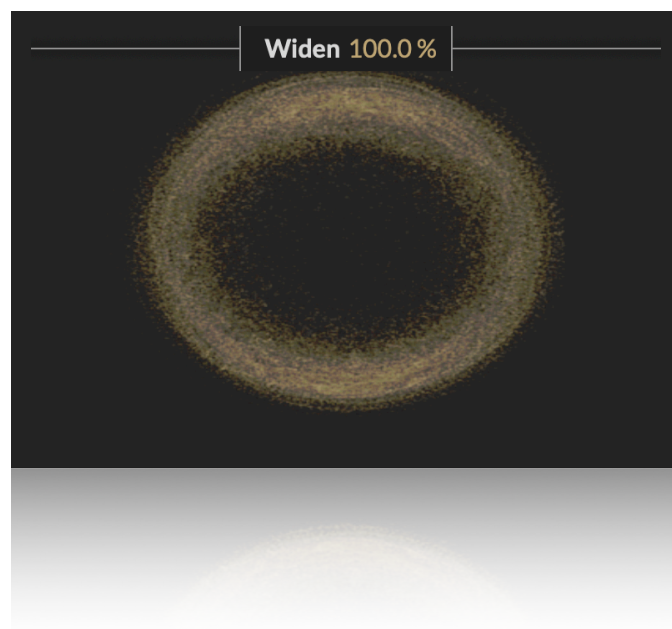
広大なステレオフィールド



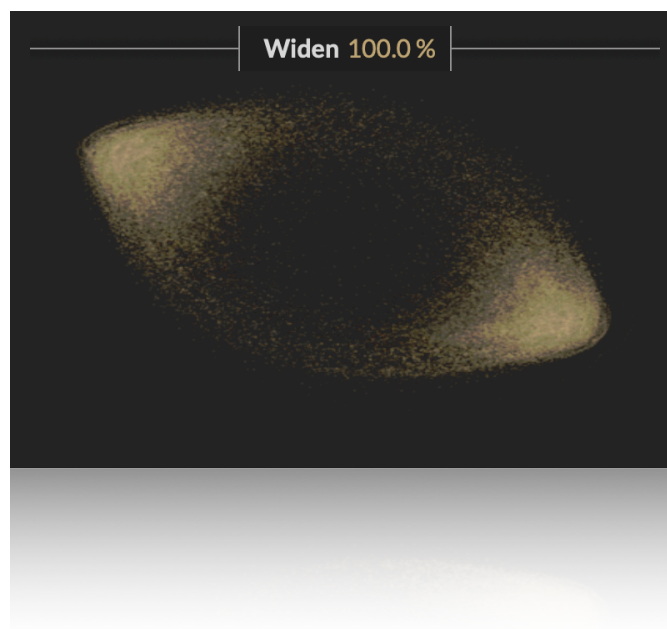
Techivation M-Imager

特徴

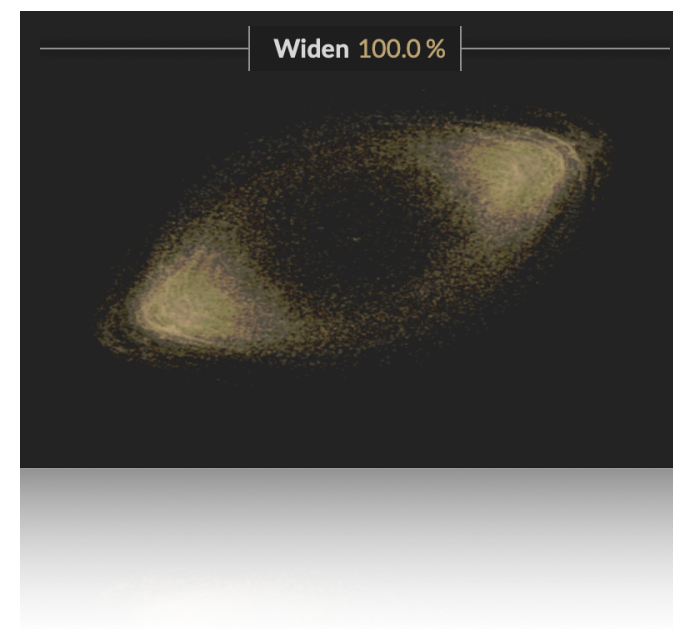
中心平衡



左寄りのバランス



右寄りのバランス



Techivation M-Imager

特徴

Mid Gain and Side Gain

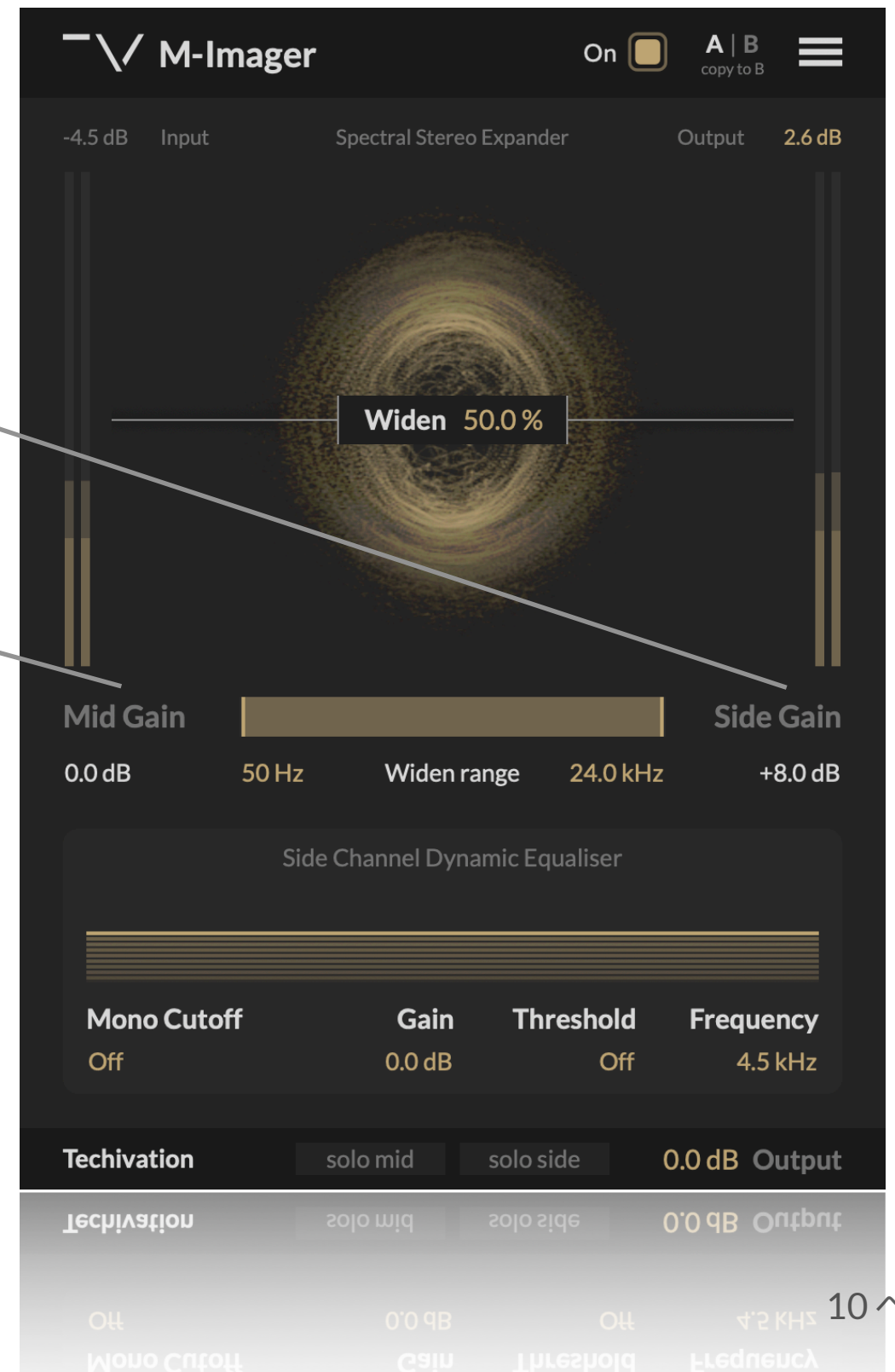
「Mid Gain」と「Side Gain」は、MidチャンネルとSideチャンネルのレベルを直接調整できます。

「Side Gain」は、元のSide信号と「Widen」コントロールによって生成される新しいSide信号の両方に影響を与えます。

「Side Gain」をブーストすると、トラックのステレオ幅が広がります。逆に「Side Gain」をカットすると、ステレオイメージが狭くなります。

「Mid Gain」は、Midチャンネルのみに影響を与える唯一のコントロールです。

ミックスの中央部分にスペースを創出するのに役立ちます。例えば、バックボーカルをミックスする際は、「Mid Gain」を下げつつ「Side Gain」をブーストすることで、バックボーカルをミックスの左右に押し出し、中央部分にリードボーカルのためのスペースを確保できます。



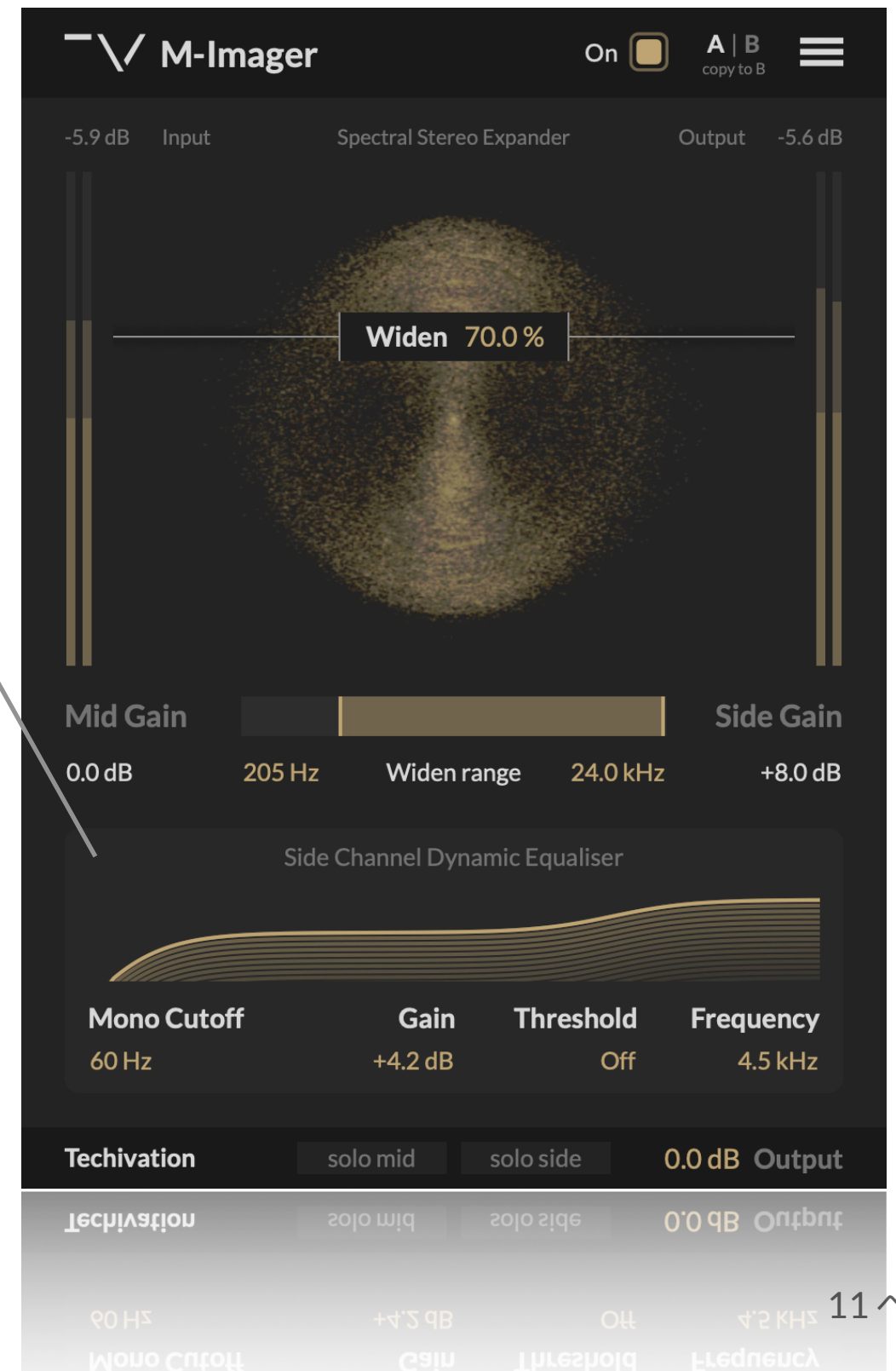
Techivation M-Imager

特徴

Side Dynamic EQ

M-Imagerの「**Side Channel Dynamic Equaliser**」セクションは、Sideチャンネルにのみ適用される穏やかな線形位相EQを制御します。このEQは、元のSide信号と生成されたSide信号の両方に影響を及ぼします。

Side Channel Dynamic EQを使用すると、Midチャンネルを変更せずにトラックのステレオイメージをさらに調整でき、完璧なモノラル互換性を維持できます。オプションで、Midチャンネルのレベルに応じてブーストまたはカットの量を調整するダイナミックEQとして使用することも可能です。



Techivation M-Imager

特徴

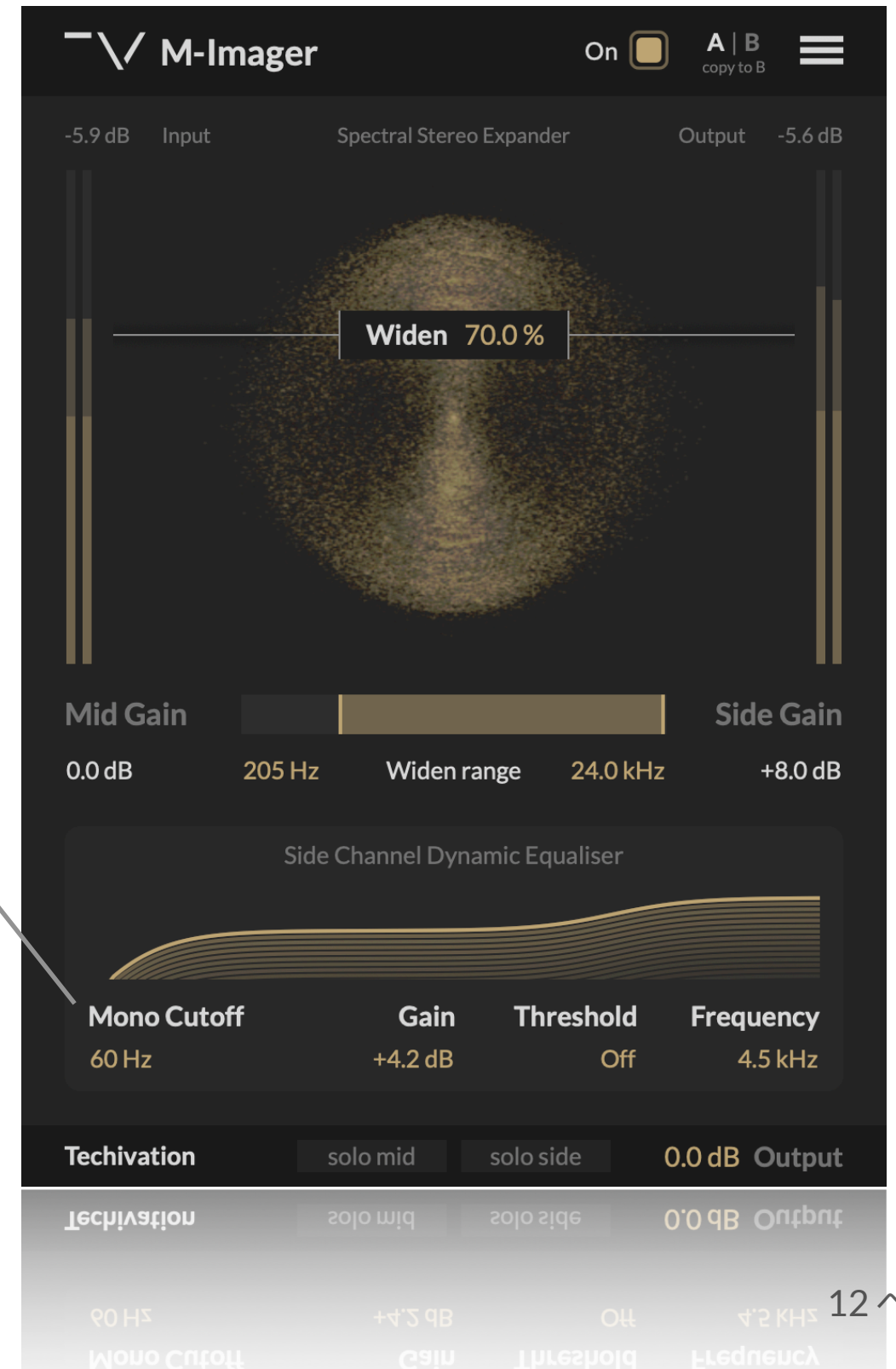
サイドチャンネル ダイナミック EQ (Side Channel Dynamic EQ) には、以下のコントロールが搭載されています：

- Mono Cutoff
- Frequency
- Gain
- Threshold
- Side Channel Equaliser Display

Mono Cutoff

「Mono Cutoff」は、出力信号がモノラルに緩やかにロールオフされる周波数を設定します。これは、サイドチャンネルに9 dB/octaveの高域通過フィルターを適用することで実現されます。このコントロールは「Off」に設定することもでき、その場合、サイド信号には減衰が適用されません。

このコントロールを使用して、トラックの低域のエネルギーをステレオ画像の中央に安定させることができます。



Techivation M-Imager

特徴

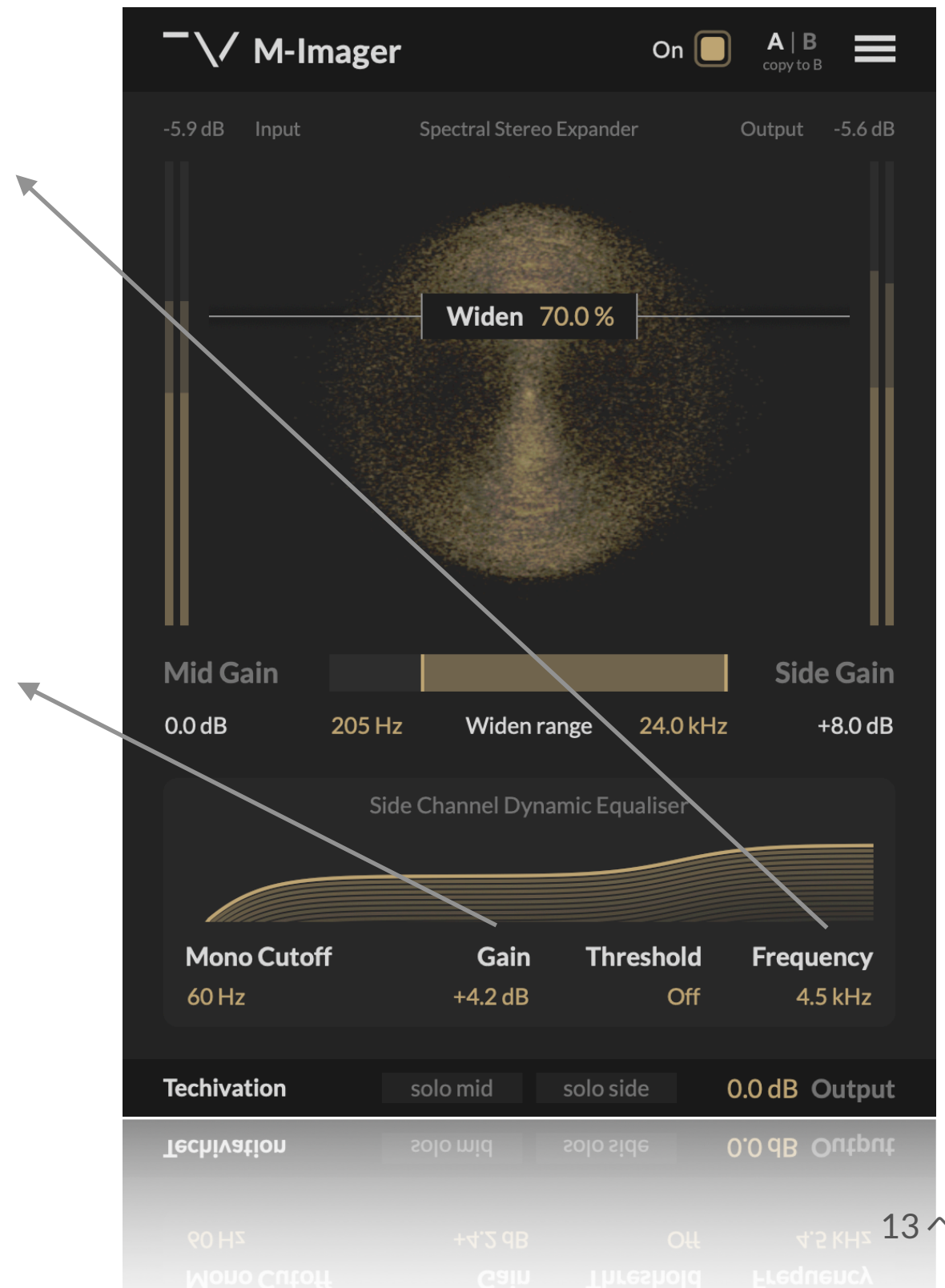
Frequency

「Frequency」コントロールは、サイドチャンネルに適用されるハイシェルフEQの周波数を設定します。この周波数を超える周波数は、「Gain」値に応じてブーストまたはカットされます。

Gain

「Gain」は、サイドチャンネルに適用されるハイシェルフEQのゲインを調整します。これは、「Frequency」値を超える周波数がどれだけカットまたはブーストされるかを決定します。

「Threshold」コントロールが有効になっている場合、「Gain」はダイナミックEQによって適用できるブーストまたはカットの最大量を設定します。



Techivation M-Imager

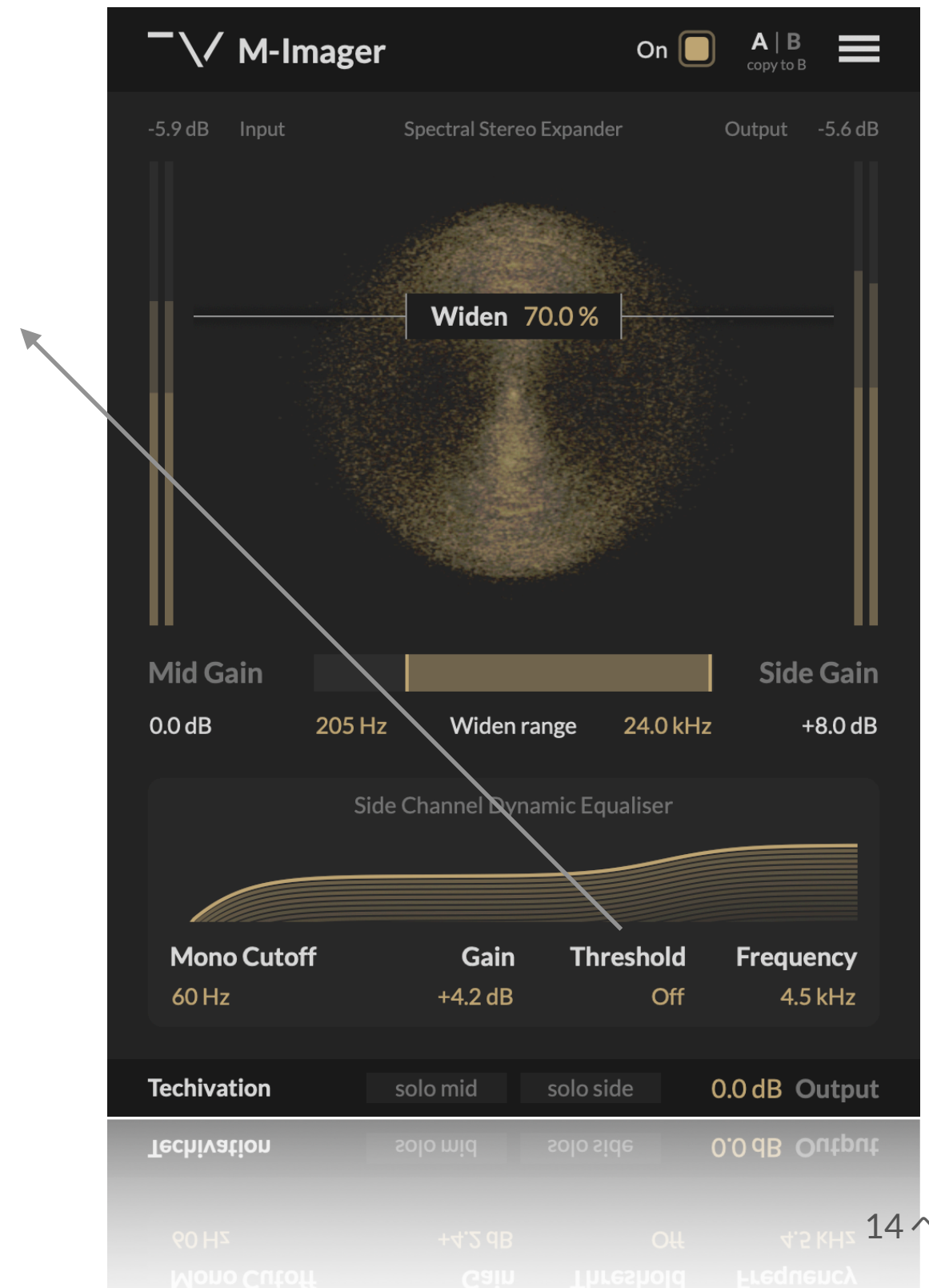
特徴

Threshold

「Threshold」はサイドチャンネルEQの動的動作を可能にします。これは、ミッド信号がフル量のハイシェルフ「ゲイン」を適用するために超える必要がある閾値（デシベル単位）を設定します。ミッド信号のレベルが「Threshold」未満の場合、比例して小さな量のゲインが適用されます。

「Threshold」を「Off」に設定すると、常にフル量の「Gain」が適用されます。

「Threshold」は、トラックのステレオ幅と明るさを動的に調整できます。正の「Gain」量を使用すると、より大きな音量の部分を広くし、ミックスのダイナミクスを強調できます。または、トラックのより大きな音量の部分でサイドチャンネルの過剰な高周波数を減衰させるために、負の「Gain」量を使用できます。



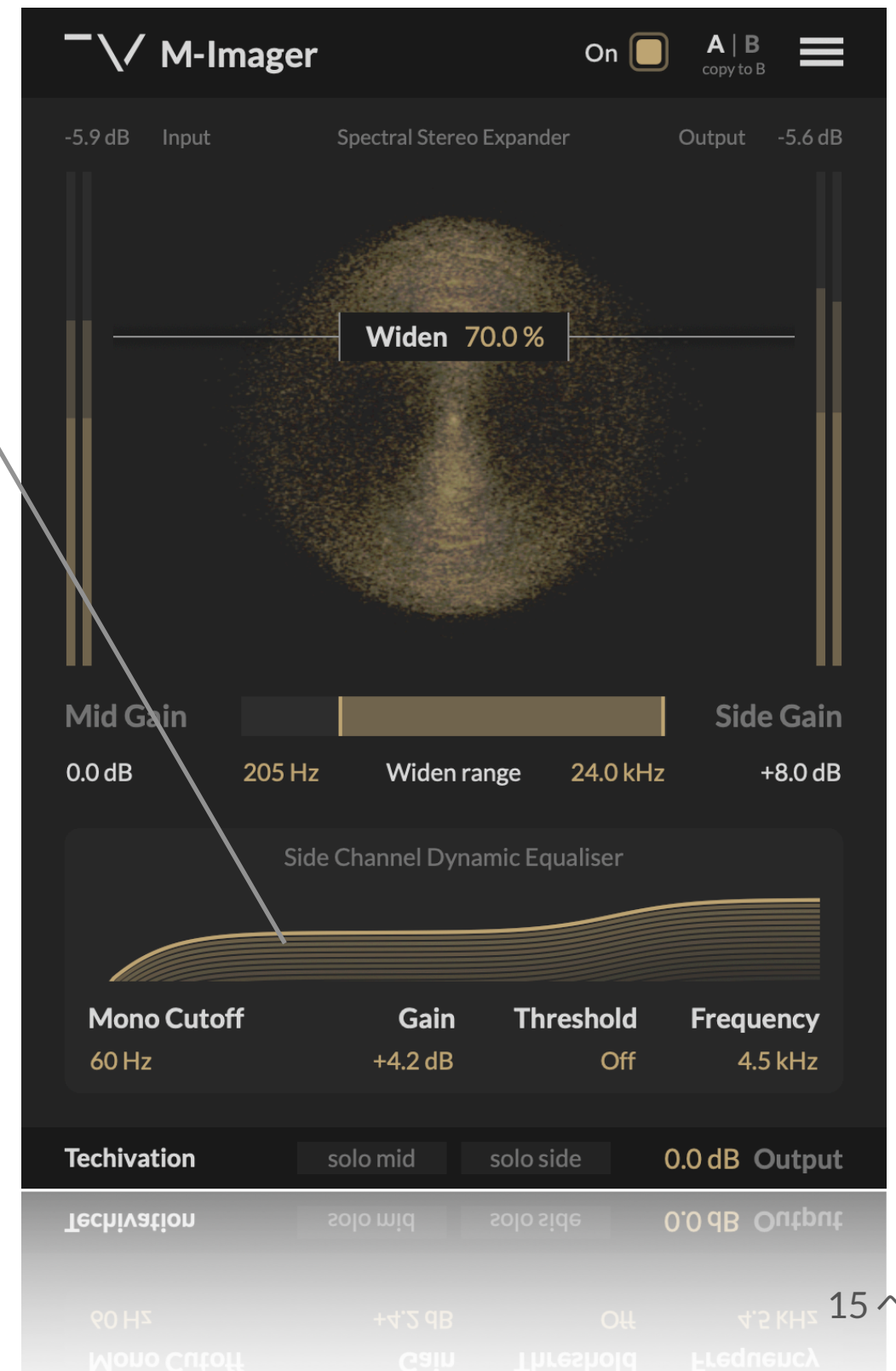
Techivation M-Imager

特徴

Side Dynamic EQ Display

サイドチャンネル ダイナミック イコライザーの表示は、サイドチャンネルに適用されている現在のイコライザー曲線を表示し、「モノカットオフ」「周波数」「ゲイン」パラメーターを直感的に設定できます。

金の曲線は、EQが調整可能な最大値を示します。ストライプの塗りつぶしは、現在適用されているEQゲインの量を示します。これは、「スレッシュホールド」コントロールが有効になっている場合、ミッドチャンネルのレベルに応じて動的に変化します。スレッシュホールドが「オフ」に設定されている場合、EQは静的に動作し、ストライプの塗りつぶしは金の曲線と一致します。



Techivation M-Imager

特徴

Input-Output Level Meters

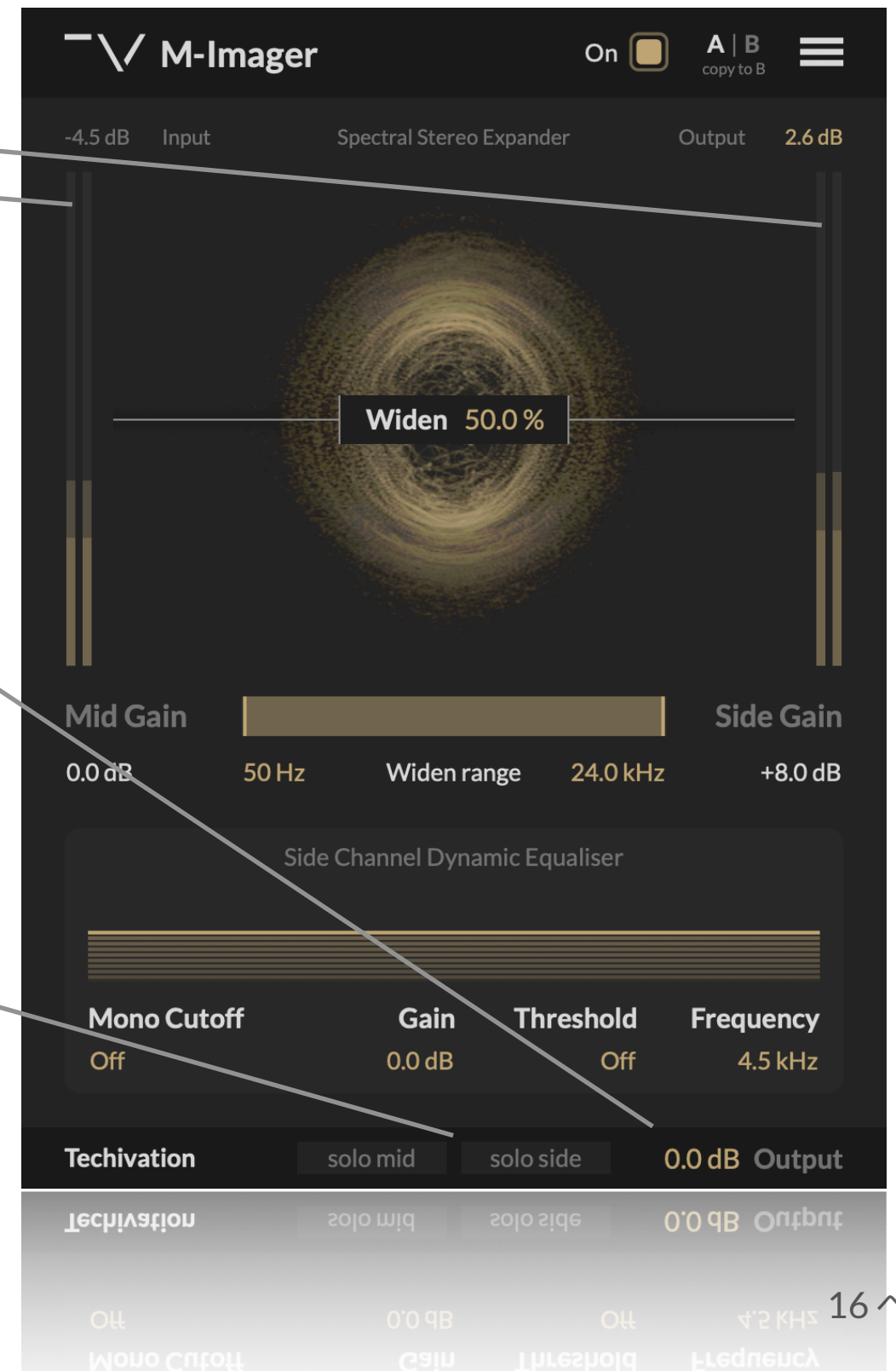
入力と出力のメーターは、信号の処理前と処理後のオーディオレベルをリアルタイムで表示します。

Output

「Output」は、処理された信号に適用されるクリーンゲインの量を調整します。

Solo Mid and Solo Side

「Solo Mid」と「Solo Side」を使用すると、ミッドチャンネルまたはサイドチャンネルを単独で聴くことができます。これらのコントロールを使用することで、プラグインがトラックのステレオイメージにどのような影響を与えているかを正確に確認できます。



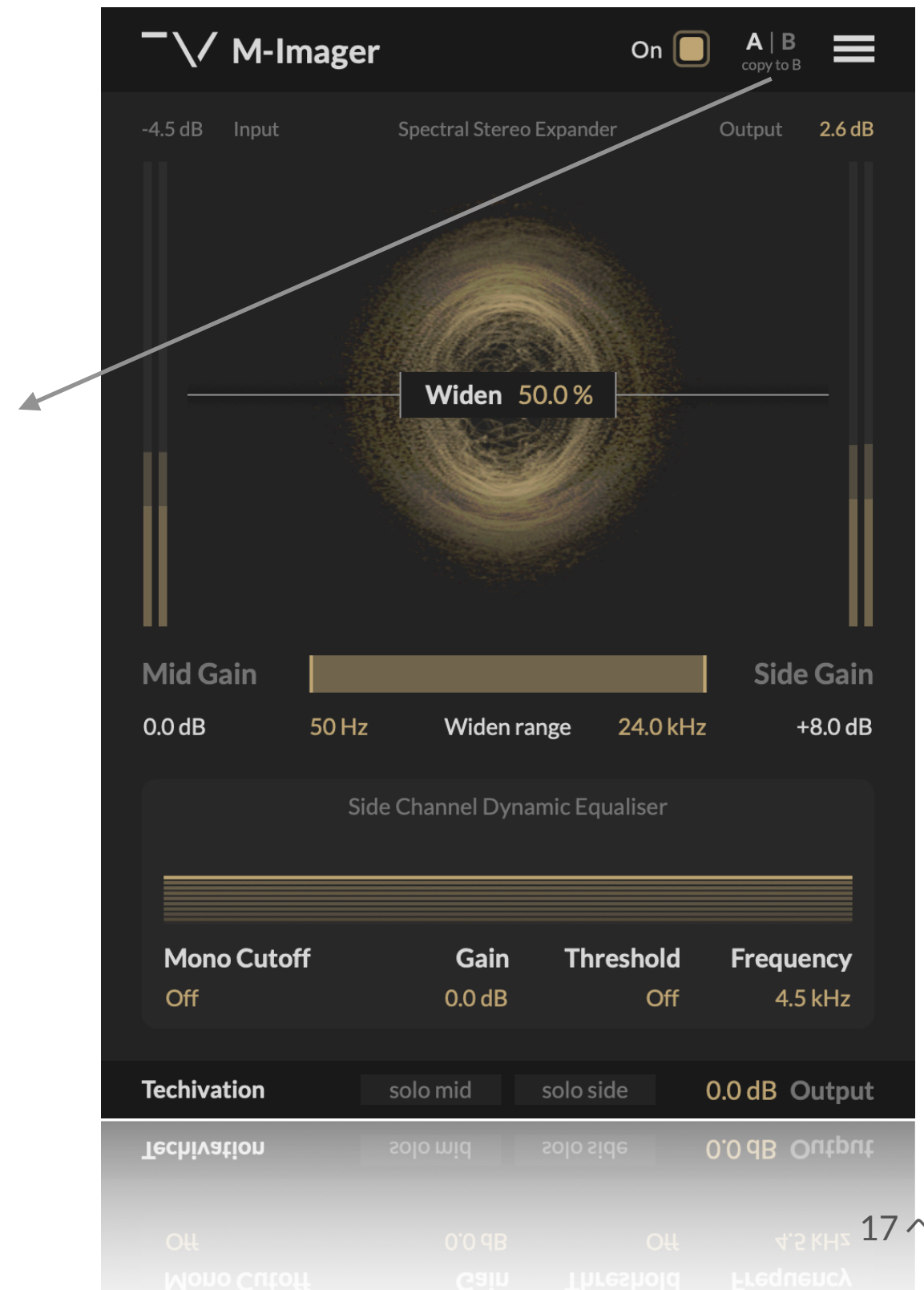
Techivation M-Imager

特徴

A と B の比較

A/Bボタンは、異なるオプションを比較し、オーディオ処理のニーズに最適な設定を見つけるための便利な方法を提供します。クリックするだけで、同じ処理チェーンの2つの異なるバージョンを切り替えて結果を比較できます。さらに、「Copy A to B」と「Copy B to A」機能を使用すると、一方のバージョンからもう一方に設定をコピーし、その効果を比較することで、小さな調整や変更を迅速にテストできます。

A/Bボタンと「コピー」機能を組み合わせて使用することで、処理の微妙な違いを効率的に評価し、最適なアプローチを選択するための情報に基づいた判断が可能です。この効率的なワークフローは時間と労力を節約し、ミックスの創造的な側面への集中を可能にします。



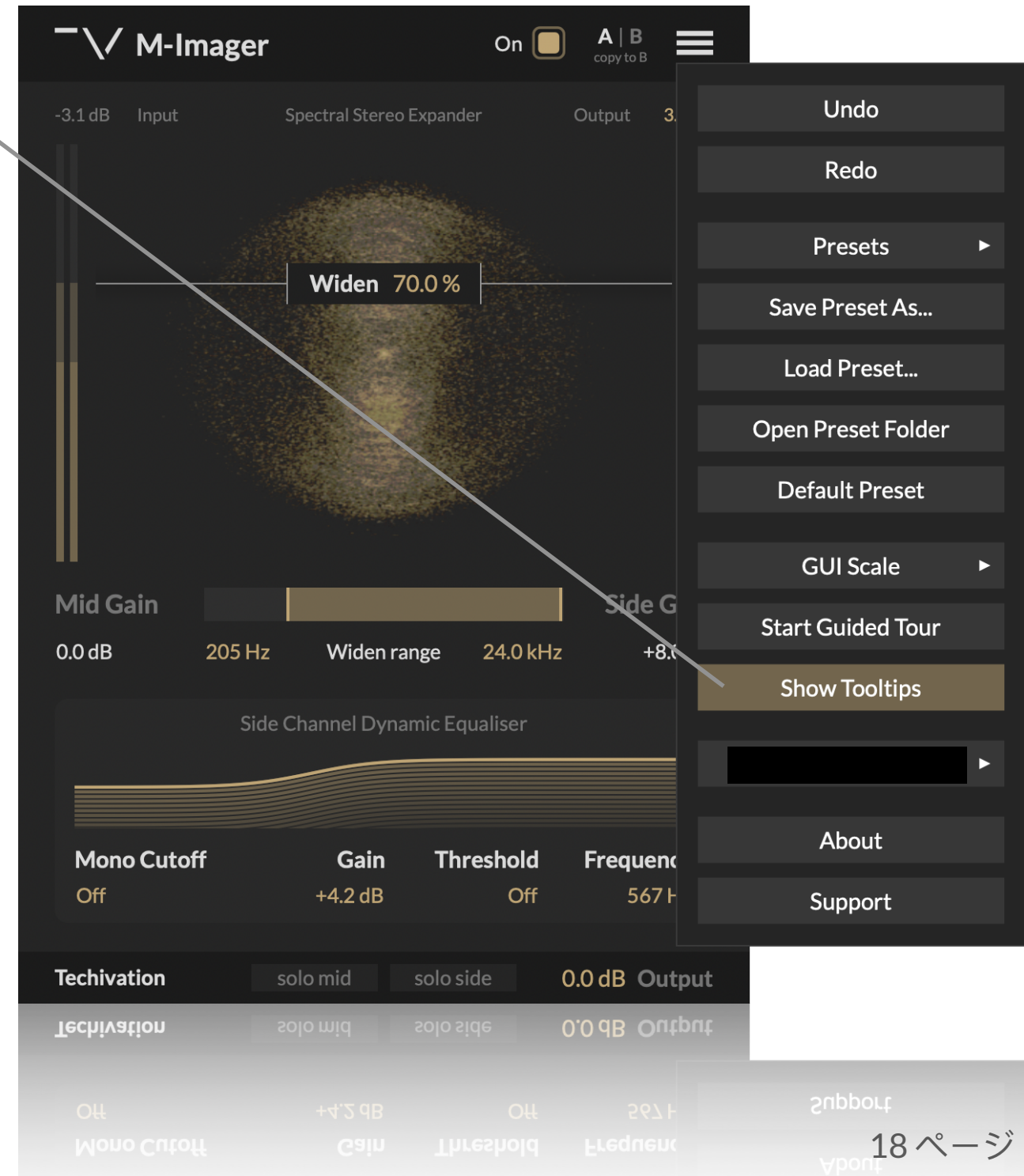
Techivation M-Imager

特徴

Tooltips

M-Imagerには、プラグインのメニューから有効化または無効化できる便利な「ツールチップ」オプションが搭載されています。このオプションを有効にすると、マウスを特定のセクションの上にホバーさせるだけで、ユーザーインターフェースの各部分の簡単な説明が表示されます。ツールチップは、プラグインのさまざまなコントロールや設定について迅速に学ぶための優れた方法であり、インターフェースを効果的に操作しやすくします。

各パラメーターについて、その機能、範囲、およびオーディオ信号への影響に関する役立つ情報を提供します。ツールチップオプションを有効にすることは、ワークフローを高速化し、M-Exciterプラグインとの作業を容易にする素晴らしい方法です。特定のコントロールの役割が不明な場合は、マウスをその上にホバーさせるだけで、迅速で有益なツールチップが表示されます。



Techivation M-Imager

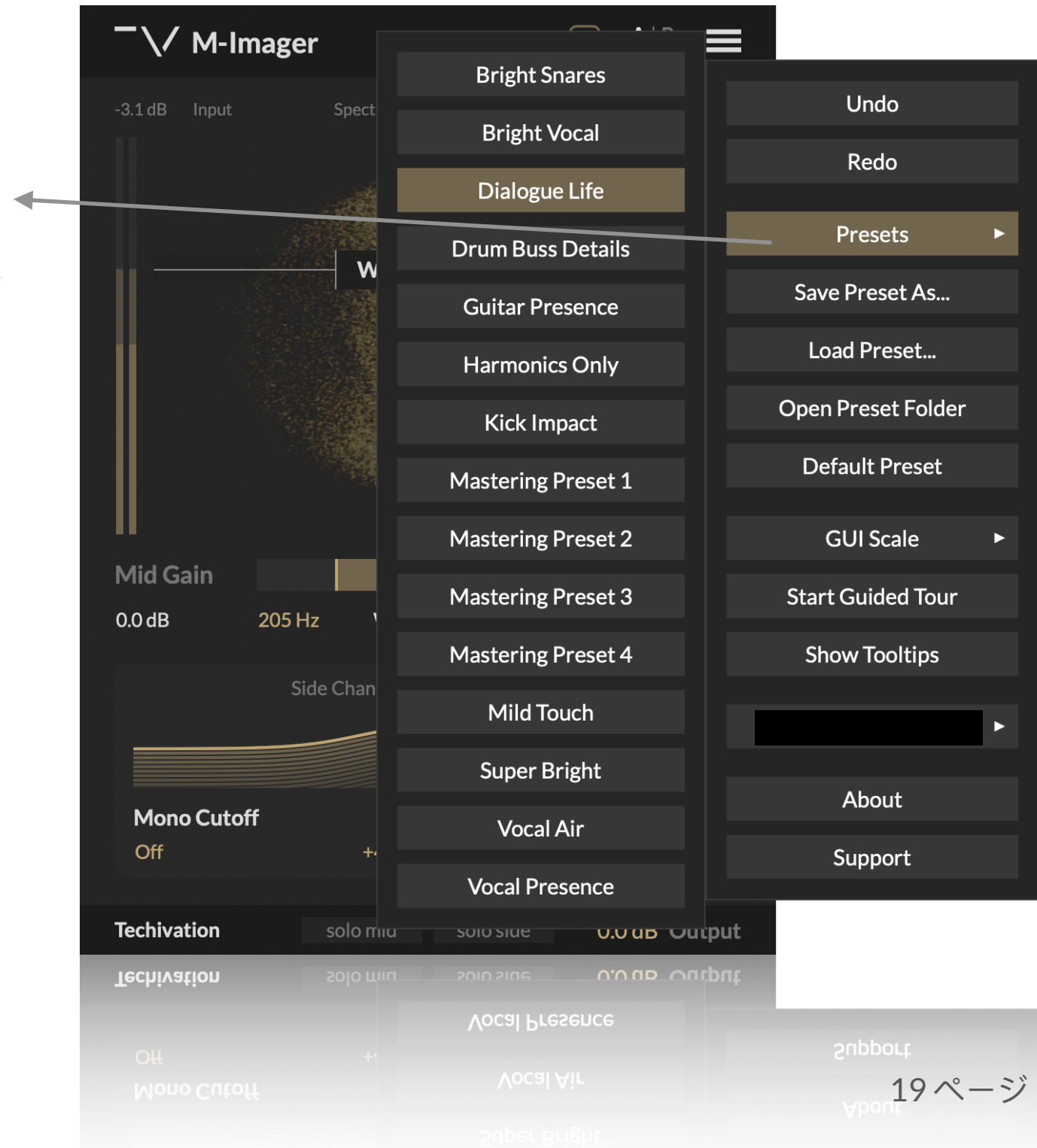
特徴

Presets

プラグインは、既存のプリセットをロードする利便性に加え、画面右上にあるメニューを使用して独自のカスタムプリセットを作成し保存する機能を提供します。

この機能により、特定のミキシングニーズに合わせた多様な設定を迅速にアクセスし適用することができ、ワークフローを効率化し、オーディオ処理タスクの統一されたスタートポイントを提供します。

さらに、独自のカスタムプリセットを保存することで、異なるプロジェクト間で好みの設定を簡単に呼び出すことができ、オーディオ制作における一貫性と効率性を確保できます。

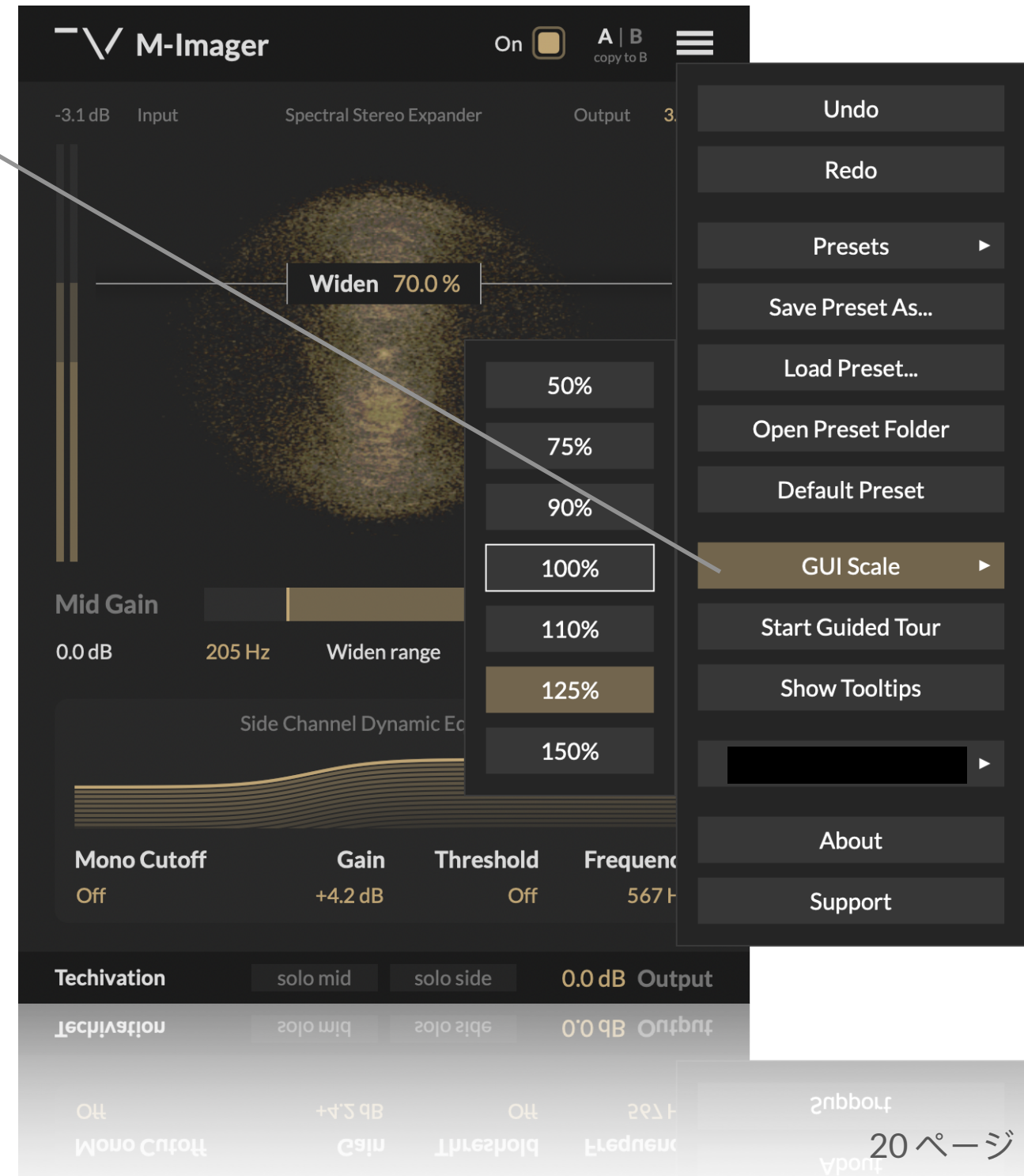


Techivation M-Imager

特徴

GUI Scale

M-Imagerのインターフェーススケーリング機能により、GUIのサイズを好みに合わせてカスタマイズし、ワークフローを最適化できます。50%から150%までのスケーリングオプションが用意されており、視覚的スタイルや作業スタイルに合わせてインターフェースをパーソナライズできます。この機能の優れた点の一つは、選択したスケーリング率に関わらず、プラグインのビジュアル品質が一致したまま保たれることです。これにより、インターフェースは拡大または縮小しても、好みの表示サイズに合わせても、クリアで読みやすい状態を維持します。さらに、M-Imagerのインターフェーススケーリング機能は、Retinaディスプレイを含むハイエンド品質のモニター向けに最適化されており、多様なデバイス上でプラグインが美しく表示され、信頼性の高いパフォーマンスを発揮します。



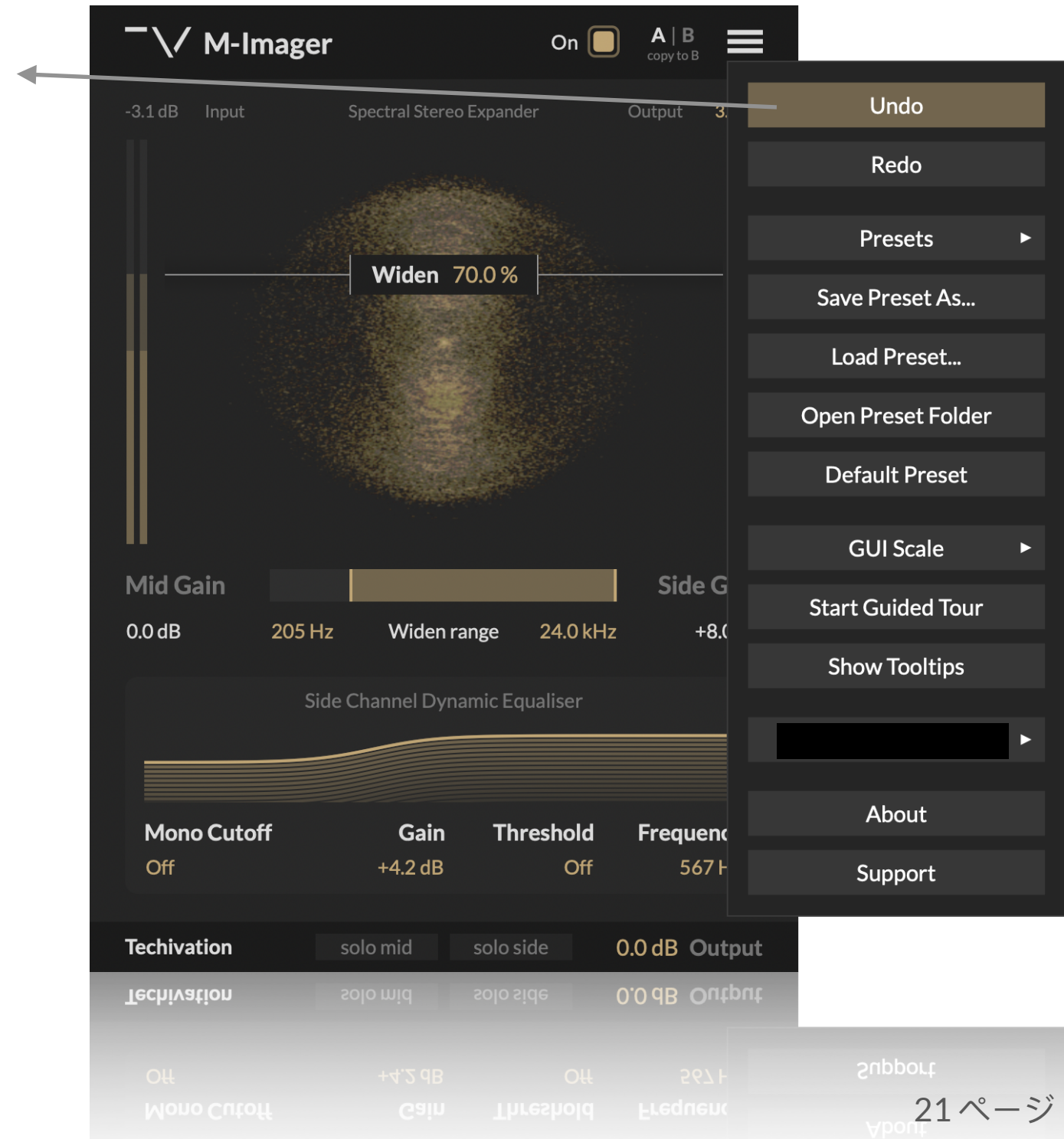
Techivation M-Imager

特徴

Undo/Redo

M-Imagerプラグインには、便利な「Undo」と「Redo」機能が標準搭載されており、オーディオ処理作業中の安心感をさらに高めます。これらの機能により、以前の設定に戻すことや、誤って行った変更を元に戻すことが容易になり、時間節約と貴重な調整を失うストレスを軽減できます。

「Undo」と「Redo」オプションは、オーディオを永久に変更する心配なく、さまざまな設定や構成を試すことができます。さらに、この機能はワークフローを向上させ、効率的な方法で後戻りして代替の処理経路を探索する手段を提供し、オーディオ制作におけるより適切な判断を下すことを可能にします。



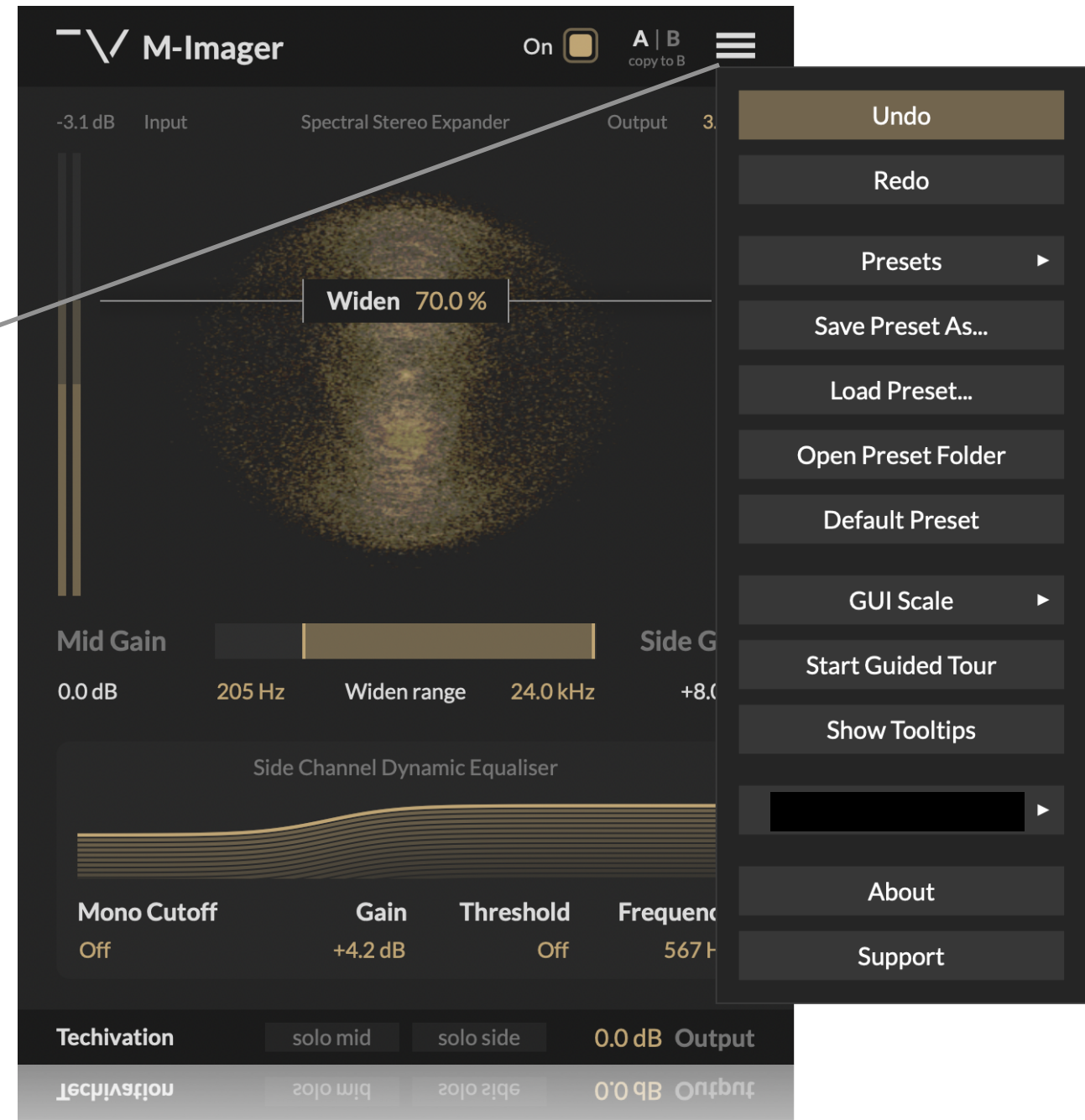
Techivation M-Imager

特徴

内部メニュー

便利な機能のクイックメニュー：

- Undo
- Redo
- Presets
- Save Preset As...
- Load Preset...
- Open preset folder
- Default Preset
- GUI Scale
- Start Guided Tour
- Show/Hide Tooltips
- [Eメール]/Sign in
- About
- Support



Techivation M-Imager

互換性

プラグインフォーマット: VST, VST3, AU, AAX.

対応プラットフォーム: macOS インストーラーは10.15 (Catalina) 以降をサポートします。

Windows 7以上。64ビットのみ

対応DAW: Ableton Live, Logic Pro, Avid Protools, FL Studio, Cubase, Nuendo, Reaper, などの主要なDAWソフトが発売されている。

活性化

M-Imager は、弊社のウェブサイトからライセンスを購入し、弊

社の条件に従ってアクティベートする必要があります。弊社からライセンスを購入するとすぐに、プラグインにサインインした後、自動的にTechivationアカウントがプラグインを有効化します。1つのライセンスを購入された方は、同時に最大2台のマシンでプラグインを使用することができます。

サポート

サポートに関するお問い合わせは、techivation.com/supportをご覧ください。

権利の詳細については、techivation.com/terms-conditionsを チェックしてください。

ご不明な点がございましたら、Eメール (info@techivation.com) または techivation@gmail.com までお気軽にお問い合わせください。

インストール

M-Imager のライセンスを購入すると、プラグインにサインインしてアクティベートすることができ、生涯使用することができます。

ソフトウェアのダウンロードはサインアップ/購入時に提供されますが、いつでもTechivation.comで最新のソフトウェアアップデートを入手できます。

ダウンロード後、ファイルを解凍し、お使いのシステムに応じてMacまたはPCのインストーラを選択してください。(警告：PC用のファイルをMacで実行したり、その逆はしないでください)。

- Mac PKGインストーラーをダブルクリックし、指示に従ってください。
- PC/Windows: ファイルの内容を解凍します。セットアップファイルをダブルクリックし、指示に従ってください。

Techivation M-Imager

アンインストール場所

MAC OS

AU: /Library/Audio/Plug-ins/Components/

VST: /Library/Audio/Plug-ins/VST/

VST3: /Library/Audio/Plug-ins/VST3/

AAX: /Library/Application Support/Avid/Audio/Plug-Ins/

その他のデータ: ~/Library/Application Support/Techivation

WINDOWS

VST: Custom path from installer

VST3: \Program Files\Common Files\VST3\

または \Program files(x86)\Common Files\VST3

AAX: \Program Files\Common Files\Avid\Audio\Plug-Ins\

その他のデータ: C:\ProgramData\Techivation 注意：このフォルダ

は隠しファイルなので、まず隠しファイルを見るように設定を変更してください』。